

令和5年度 第69回 合志市地域公共交通協議会 会議録要旨

〔日時〕 令和5年11月27日（月）13時30分～

〔場所〕 合志市役所防災棟1階 避難所

〔出席者〕 祇園田征士委員、島田忠昭委員、野口チカ子委員、
齊場俊之委員、徳丸和行委員、野田徹志委員
山野一平委員、小森田政憲委員、住吉隆典委員、宗像正洋委員
原田和彦委員、笹原維俊委員、田内康敬委員、石原政孝委員

〔代理出席〕 熊本河川国道事務所 手島秀康委員
合志市社会福祉協議会 黒川敬士委員

〔欠席者〕 松永信弘委員、寺本秀信委員、二子石智子委員、冨田廣志委員、
上松秀樹委員、白石勇人委員、田村正宜委員、横山朋弘委員、工藤康隆委員
森山悠委員、作野淳一委員、飯干修一委員

〔事務局〕 名垣会長、溝上副会長、佐藤企画課長、佐藤主査

〔議題〕

- (1) レターバス・乗合タクシー 運行時刻の修正について
- (2) 合志市地域公共交通計画の策定について

1 開会

佐藤企画課長が開会の宣言及び新任委員の紹介を行った。

2 会長あいさつ

名垣会長より以下のとおりあいさつを行った

本日は大変ご多忙の中、協議会にご出席いただきまして、ありがとうございます。

今年度は協議会全体で3回の会合を予定しておりまして、今日2回目ということで、皆様方からいただいた問題点や課題といったことを整理しながら事務局案を作成しています。

我出口を見据えた上で、さらに今抱えている問題点、環境変化を踏まえながら、第3回のアウトプットに活かすような形で議論を進めていきたいと考えております。そういう観点で活発な議論を期待しております。

3 議題

議題 (1) レターバス・乗合タクシーの時刻表修正について

事務局から資料1について説明。

審議の結果、出席者の承認を得て原案どおり決議された。

【主な意見・質問など】

斉場委員：南ルート 御代志行き（休日）の6便について、乗り継ぎ時間が25分待ちとなっている。30分間隔の鉄道の25分待ちは想定している待ち時間なのか。

事務局：南ルートは、他の公共交通機関との接続が多く、この時間をずらしてしまうと他の公共交通機関との乗り継ぎが不可能となる。そのため、25分の待ち時間も理解して設定している。

斉場委員：中央ルート 辻久保行き（平日及び休日）第2便について、10:36分に御代志駅に到着のため、11時11分の鉄道に乗り換えとあるが、10時41分に乗り換え可能ではないか。

事務局：10時41分に乗り換え可能です。資料の修正をお願いします。

斉場委員：コミュニティバスとの乗り継ぎで次の便までの待ち時間が15分は長いと感じるが、どのように考えているか。

事務局：南ルートからの接続について、今回は遅延解消に向けた改定を行うが、100%解消できるわけではない為、15分～20分程度の待ち時間はどうしても必要になってくると考えている。

斉場委員：15分の待ち時間は長いと思う。特にアンビー熊本のバス停は乗り継ぎ拠点として貧弱なため、待ち時間に応じた乗り継ぎ拠点の整備を考えていく必要がある。

事務局：乗り継ぎ拠点の整備については、改善を検討していく。

斉場委員：南ルートに追加する南野々島と市営住宅前について、需要の予測というのは立てているか。また、渋滞の影響をどのくらい考えているか。

事務局：利用者の予測については具体的な数字は出していないが、市営住宅前バス停は区をはじめ多数の住民から要望をいただいているため、需要はあると考えている。
渋滞に関して、事務局で現地を確認し、数分の渋滞は確認しているが、極端にダイヤに影響がでることはないと考えている。

溝上副会長：資料にある遅れ時間の折れ線グラフについて、令和2年度のダイヤ改定によって遅延が悪化したのか、又は別の原因があるのか。

事務局：令和2年のダイヤ改定だけの原因というわけではないが、光の森駅への往復が特に遅れが生

じている。明確な理由は調査していないが、交通量の増加が大きな要因と考えている。

溝上副会長：今回のダイヤ改定で一時的に解消したとしても、交通量の増加が原因であれば、再度遅延は発生する。ダイヤの改定以外でも対応していく方策を考えていきたい。

事務局：渋滞スポットを避ける路線に変更するなど、路線等の変更については引き続き検討事項として進めていく。

議題（2）合志市地域公共交通計画の策定について

事務局から資料2について説明。

今回出た意見を踏まえ、計画書素案を作成し、次回協議会で協議していく。

【主な意見・質問など】

野口委員：市民アンケートの結果を見ると、コミュニティバスを利用したことない市民が87%であり、利用したことない人の中にはコミュニティバスを知らないという意見もある。年間利用者数も市民1人が年1回乗った程度であるため、税金の使い道としてもっと考えていく必要がある。

石原委員：高齢者が多いエリアや、病院、買い物といった利用者の多い目的地を把握する必要がある。例えば、駅に時間を決めて地域の人が集まり、そこから乗合タクシーなどで希望する病院まで周る等、仕組みを簡単にすべき。

溝上副会長：乗合タクシーは今の状態だと、需要が減っても、運行に必要な経費は減らないため、できる限り早く整理が必要と考える。

また、コミュニティバス以外でも、熊本電鉄といった既存の公共交通機関をどのように生かすのか、公共交通計画にもう少し細かい記載が必要。そのなかで、セミコン通勤バスのような施策を検討してほしい。

インターチェンジの新設により、市外からバスで移動してくる人も増えるため、そういった方が利用できるサービスも必要になってくる。

TSMC等の影響は大きく、交通量も増えている。現状をシビアに考えないと、10年後大変なことになりかねない。

斉場委員：合志市には二つの問題があり、1つ目は車を持っていない人、高齢者、交通空白地域の交通問題が解決していない。1つ1つの移動ニーズが少数であるため、デマンドやゾーン制の運行を取り入れないと対応していけない。

2つ目は通勤等に対応したまとまった人数を輸送する手段としての東西の軸がない。レターバスがその役割だが、高齢者のニーズとどちらも満たそうとして、結果として使いにくいものになっている。通勤で利用される自家用車の分担率を落とし、公共交通に転換してもらうための目標や指針を計画に載せる必要がある。

島田委員：現在の後川辺線の運行路線沿線では、再春医療センターに行く場合はアンビー熊本を經由し、市内を大回りする形でしか病院にいけない。その場合、診察時間に間に合わない。もう少し北部の地域のことも考えてほしい。

事務局：路線の変更や、デマンド型の導入、目的地の設定などは、今回の計画の期間の中で検討を行っていく。今後も協力をお願いしたい。

小森田委員：乗合タクシーの運行については、令和2年の再編以前の乗継を利用せずに目的地まで行ける運行方法が良い。

斉場委員：人口の少ない地域や、高齢者の方にはドアツードア方式で運行いただき、レターバスは人口の多いところを走らせるというのが基本的な考え方。また、車からバスに乗換可能な駐車場を確保し、自家用車の量を減らすという考え方を取り入れていただきたい。
また、新しいアイデアとして、高速バス西合志バス停を整備し、福岡までの移動を便利にするというのも今後考えていきたい。

溝上副会長：リアルタイムオンデマンドはとても便利だが、運行するタクシー事業者の負担を考える必要がある。また、市全域に入れてしまうと、バスはなくなり、大人数の移動に対応できる公共交通機関がなくなるといったことにならない役割分担をよく検討する必要がある。

斉場委員：乗り継ぎの問題について、レターバスの便数の少なさから、乗り継ぎ先が不便等いうことで、利用されなくなっている。行政サイドではどうしても予算の制約がでるが、一度予算の制約なしに、移動ニーズを満たすアイデアを議論していきたい。

名垣会長：現状からいい方向に持って行くための個別施策を考えていくにあたって、本日は大きな目標というのを探したいと思っている。ただし、最終的には個別の事業を念頭に置かなければならないため、現実的に達成できる地に足のついた議論を行っていく必要がある。
多様なニーズに優先順位をつけ、どこまでやっていけるか、協議会の中で作っていったらと思う。

田内委員：栄工業団地は従業員300人程だが、8割が合志市外から通勤しており、そのほとんどが自家用車を利用している。熊本電鉄との接続などを考え、通勤に利用できる公共交通の導入を検討いただきたい。

斉場委員：朝の御代志の渋滞は、通勤者という目的地が決まっている人なので、公共交通の利用に向いている。御代志駅から勤務地の移動手段を公共交通で確保できれば、御代志周辺の交通量は削減できる可能性がある。

溝上副会長：合志市の地域公共交通計画を立てるのに合志市の中の移動だけを考えるのではなく、菊陽町や大津町と3つ一緒に地域公共交通計画は立てるべき。特に東西の移動は考えた方がいい。

4 閉会

佐藤企画課長が閉会の宣言を行った。